

特集

コロナに負けず、“いま”できる活動を！



豊小学校4年生～やさしい町みのり やさしさとどけ隊～



市社協では、昭和53年度から児童生徒の福祉教育を推進しています。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めながら、障がい当事者（ゲスト講師）の紹介や福祉の講話など、延べ50校の福祉教育に関わりました。その中のひとつ、豊小学校では、4年生（3クラス79名）が、「福祉」をテーマにした総合的な学習の時間に取り組んでいます。

7月 体験学習をスタート

新型コロナウイルス感染拡大防止により、例年のように地域のお年寄り等との交流はできませんでしたが、その分敬老事業に添えるメッセージカードの作成や、アイマスク・ガイドヘルプ体験、点字体験など、校内でより多くの体験を実施しました。

目の不自由な方のお話や車いすバスケットボール体験等を通して障がいのある方々とふれあうと、子どもたちからは「かわいそうと思うのではなく、相手の立場を考えて、声をかけていきたい」などの声があがり、2学期からは自分たちができることを考え、実践に向けた学習を進めています。

12月 福祉のまちづくりワークショップ

福祉のまちづくりワークショップ「見つける！考える！福祉のまちづくり大作戦」として、当会職員やボランティアスタッフが各クラスに訪問。班に分かれ、地域の困りごとや解決策を出し合いました。豊地区で自分たちにできることとして「お年寄りに声をかける」「点字ブロックに物を置かない」「お店に盲導犬と入れることを当たり前にする」など、たくさんのアイデアが出ました。

1月 学習のまとめ&3年生や地域に向けた発表準備

これまでの学習を振り返り、まとめをしています。班ごとに「バリアフリー住宅」「お年寄りと楽しく遊ぶ」「障がい者スポーツ」などテーマを決め、調べ学習をしながら発表の準備をしています。先生からは「子どもたちは、どの活動にも学ぶ意味や目的をもって取り組んできました。そして、様々な体験や講師の方との交流を通して、福祉に対する理解を深め、関わりをもつことへの大切さに気付くことができました。3年生や地域に向けて自分の考えを発信することで、“これからも豊地区をもっとやさしい町にしていきたい”という思いを強くしてほしいです」との声がありました。

市社協では、これからも学校や地域と連携しながら福祉教育を推進していきます！

